（４）選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

① 農産物のブランド力向上と競争力の強化

○ とちぎの食と農魅力発見フェア2025を開催

- 県産農産物等の販路開拓・拡大や、地産地消への理解促進を図るため、展示商談会と地産地消フェアをマロニエプラザで開催しました。
- 延べ2,200名が来場し、県産農産物等の新たな魅力が発見できたとの声が多く寄せられました。
- また、商談も盛んに行われ、その後29件の成約につながりました。
- 今後も、地産地消の取組拡大を目指し、引き続き、ビジネス機会の創出や理解促進に努めていきます。



10月31日(金)展示商談会



11月1日(土)地産地消フェア

（農政課）

○ 「いちご王国」プロモーションの実施

- 「いちご王国・栃木」の全国的なイメージ定着を図るため、県内のほか首都圏や関西圏においてプロモーションを実施しました。
- 県内では「いちご王国・栃木の日」記念イベントを開催したほか、「大切な人にいちご♡を贈ろう運動」キャンペーンを実施し、計2,674名から応募がありました。また、首都圏の駅商業施設飲食店でのフェアや空港での試食配布を実施したほか、関西圏でのマルシェ開催により「いちご王国・栃木」をPRしました。
- 今後も「いちご王国・栃木」の認知度を高め、県産いちごの魅力を広く発信していきます。



「大切な人にいちご♡を贈ろう」キャンペーン



羽田空港でのマルシェ、試食配布

（経済流通課）

（４）選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

① 農産物のブランド力向上と競争力の強化

○ 県内観光地等での農産物フェアの開催

- 観光旅行の目的の一つとして「食」への関心が高まっていることから、県内観光地の宿泊施設等で県産農産物のPRを実施しました。
- 宿泊施設等の地産地消推進店で県産農産物を使ったメニューを食べると「とちぎ和牛」や「とちあいか」が抽選で当たるデジタルスタンプラリーを実施し、計3,048名の方から応募がありました。
- 今後も、食を通じたプロモーションの展開により、県産農産物のブランド力向上を図ります。



とちぎの地産地消推進店
デジタルスタンプラリー



県産農産物を使った
ビュッフェ会場の様子

（経済流通課）

○ 第74回関東東海花の展覧会を開催

- 令和８(2026)年1月末にサンシャインシティ文化会館において、1都11県及び花き関係5団体が主催する日本最大級の花のイベントを開催し、約2万人が来場しました。
- 県特別展示として、「花ある暮らしへ誘うとちぎ旅」をテーマに、県産花きをふんだんに使用した飾花を行ったほか、品評会では県内181点の出品のうち2点が農林水産省農産局長賞を受賞しました。
- 今後も、消費者に県産花きの魅力を伝えることにより、県産花きの消費拡大に取り組んでいきます。



県特別展示



会場の様子

（生産振興課）

（４）選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

① 農産物のブランド力向上と競争力の強化

○ 有望品種制度の制定

- 県産農産物の競争力強化に資する品種を「有望品種」として位置づけ、栽培技術等の指導及び助言を行う有望品種制度を新たに制定しました。
- 育成者や生産組織等を対象に公募し、関係者による意見聴取会を開催しました。水稲品種「ゆうだい21」は、食味に優れる特徴があり、県内生産者の所得向上に資するなどの意見があったことから、有望品種に指定しました。
- 今後は、生産者からの要請に応じた栽培指導を行えるよう、育成者や生産者との連携を図っていきます。



ゆうだい21ほ場

（生産振興課）

○ 県産畜産物の消費拡大の取組

- 県では、牛乳やとちぎ和牛など県産畜産物のブランド価値の向上と消費拡大を図るため、農業団体等と連携し様々な取組を実施しています。
- 令和７（2025）年度は県産畜産物を購入によりプレゼントが当たるキャンペーンの実施や県内観光地で「とちぎ和牛」等の県産銘柄牛肉を堪能できる宿泊プラン造成、牛乳・乳製品の健康面への効果や魅力を発信するミルクセミナーの開催などに取り組みました。
- 今後も、農業団体等と連携し、「とちぎの畜産物」の魅力を発信する取組を展開していきます。



とちぎ和牛贅沢
キャンペーン



ミルクセミナー

（畜産振興課）

（４）選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

① 農産物のブランド力向上と競争力の強化

○ ブランド力・販売力向上に向けた研修会・相談会の開催（河内地域）

- 河内地域の農産物の魅力をより多くの方に届けるため、生産者を対象に、専門家を招いたブランド発信や販売に関する研修会・相談会を実施しました。
- 参加者は、ブランド構築、情報発信、デザインをテーマに自身の強みを整理し、効果的に発信するための実践的な知識を習得しました。
- 今後も、生産者のチャレンジを後押しする支援を続け、地域のブランド価値の向上につなげていきます。



ブランド構築研修会



デザイン相談会

（河内農業振興事務所）

○ 「米づくりの今後を考える」講演会を開催（塩谷南那須地域）

- 需給ひっ迫に伴う価格高騰など、米をめぐる情勢の不安定性が増す中、長期的に売れる競争力のある米づくりの実践が求められています。
- 収益性の高い水稲経営の実現に向け、米の販売を手がける（株）シブヤと山下食糧（株）の代表を招いた講演会を開催し、農業者や農業団体等63名が参加しました。
- 収益性の高い水田農業の実現を目指し、引き続き、需要に応じた米づくりを支援していきます。



山下氏講演



澁谷氏講演

（塩谷南那須農業振興事務所）

（４）選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

① 農産物のブランド力向上と競争力の強化

○ さといも善光寺の推進（塩谷南那須地域）

- 南那須地域のさといも産地の更なる発展に向けて、食味に優れ市場評価の高い「さといも善光寺」の生産拡大に取り組んでいます。
- 令和7（2025）年は、ブランド化の一環として、長野県の善光寺から「さといも善光寺」の商標使用の許諾を得ることができました。
- 今後は商標を活かしたブランド確立を進めるとともに、新規栽培者の確保や生産規模の拡大、さらには地域特産品づくりなど産地の振興を図っていきます。



現地検討会



さといも奉納(善光寺)

（塩谷南那須農業振興事務所）

○ 農業におけるSNS活用の推進（安足地域）

- 近年、インターネットによる農産物販売が盛んとなっており、経営においてSNSを活用する事例も増加しています。
- そこで、SNSを活用した有利販売や消費者へのPRを効果的に行うためのセミナーを開催し、講演とパネルディスカッションを行いました。また、SNS運用の懸念点なども共有しました。
- 今後もこうした取組を通して、農業者のSNS活用支援を行っていきます。



セミナーの様子



パネリストのSNS

（安足農業振興事務所）

（４）選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

① 農産物のブランド力向上と競争力の強化

○ なし花粉増産と他産地への供給（安足地域）

- 令和5（2023）年8月に中国国内で発生した火傷病による中国産なし花粉の輸入の停止に伴い、安定した結実に向けて自家採取による花粉の確保が急務となりました。
- 生産部会の全戸調査で必要な花粉量を把握し、部会内で過不足がないように調整するとともに、県内他産地への花粉供給の取組も支援しました。
- 今後は、生産部会が主体的に取り組めるよう支援していきます。



切り枝法による
花粉の増産



なし花粉(花蕾)の自家採取作業

（安足農業振興事務所）



（４）選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

② 農産物の輸出拡大

○ 県産農産物の輸出強化に向けて

- 海外市場の販路拡大を図るため、令和7（2025）年12月にベトナム・台湾において知事トップセールスを実施し、牛肉、いちご、コメ、なしなどの県産農産物の魅力を発信しました。
- また、輸出促進員を設置し、生産者の輸出向け商談会への出展やシンガポールの牛肉バイヤー招へいによる産地視察を支援しました。
- 更に、令和7(2025)年12月に「栃木県産農産物輸出促進方針」を策定し、本方針に基づき、海外需要の喚起や輸出産地の形成・育成をオール栃木体制で進めていきます。



トップセールスでの試食提供（台湾高雄市）



シンガポールの牛肉バイヤー招へい（産地視察）を支援

（経済流通課）

○ 県産いちごの更なる輸出拡大に向けた取組

- 県産いちごの更なる輸出拡大を図るため、新規販路開拓や、輸出に取り組む産地への支援を行いました。
- 放射性物質に係る輸入規制が撤廃された台湾に対して、現地プロモーションを実施しました。一方で実際の輸出時には、厳しい残留農薬規制があるため、規制に対応した生産の取組を支援しました。
- さらに、日本産いちごの未開拓市場である米国へ県産いちごの試験輸出を行い、市場性があることが確認できました。
- 今後は、米国でのプロモーションの実施などにより、更なる販路開拓に取り組みます。



台湾におけるプロモーション



米国への試験輸出

（経済流通課）

（４）選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

② 農産物の輸出拡大

○　県産米の販路を安定的に確保するための輸出拡大（芳賀地域）

- 米の国内需要の将来的な動向を踏まえ、販路開拓の一環として、欧州向けに米の輸出を支援しました。
- 日本食人気が高まっているスペインにおいて、おにぎりの試食イベントを開催し、参加者約350名に県産米のおいしさを体験してもらいました。また、地元レストラン等8事業者に米を試供し、いずれからも高い評価を得ることができました。
- 今後は、本年度の取組成果を踏まえ、市町等と連携して本格的な輸出の支援に取り組みます。



スペインでのPR活動



イベントで提供したおにぎり

（芳賀農業振興事務所）

○　台湾向けいちごの輸出支援（下都賀地域）

- 台湾へのいちごの輸出に取り組む西方生産組合に対し、輸出先の残留農薬基準に対応するために必要な資材の導入を支援しました。
- 害虫を捕食する天敵をほ場に放飼し、農薬の使用を最小限に留めた栽培を行うことで、いちごの安定的な生産と輸出が可能となりました。
- 今後も県産農産物の輸出拡大を図るため、輸出に挑戦する生産者を支援していきます。



天敵を圃場に放飼する様子



放飼された
「コレマンアブラバチ」

（下都賀農業振興事務所）

（４）選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

③ 次世代を見据えた研究開発の推進

○ 新たな水稲品種の開発へ向けた施設を設置

- 近年の水稲栽培を取り巻く情勢は、担い手の減少や高齢化による労力不足のほか、夏季の高温による品質低下など、非常に厳しくなっています。
- そこで、スマート農業機器の活用に適し、高温耐性を有する水稲品種を開発するため、令和7(2025)年に「次世代品種開発検定ハウス」をセンター内に設置しました。
- 今後、当該施設を活用し、育種手法を効率化・加速化することで、県内農業者にとって有益となる水稲の品種開発を進めていきます。





次世代品種開発検定ハウス

（農業総合研究センター）

○ 乳牛の新たな暑熱対策技術「SLICK牛」

- 近年、夏場の気温上昇が顕著になり、乳用牛の乳量や繁殖性に悪影響を与えることが懸念されていることから、暑熱耐性の高いSLICK遺伝子をもつ乳牛の生産を進めています。
- この牛は、被毛が短い特徴をもち体温調節能力が高いため、夏季でも安定した生乳生産が期待されています。
- 今後は、SLICK遺伝子を持つ牛の暑さへの強さを確認するため、食欲や乳量への影響等を調査していく予定です。



SLICK遺伝を持つ牛
（体毛が短い）



通常のホルスタイン

（畜産酪農研究センター）